

第3回 横浜市立大学先端医科学研究センター 国際学術フォーラム 報告

『基礎研究シーズを臨床ニーズに活かす戦略と科学的ツール』
横浜市立大学国際共同臨床研究推進実行委員会

報告書目次

序文

水 嶋 春 朔

横浜市立大学国際共同臨床研究推進実行委員会名簿

プログラム

講演要旨および講演スライド

ポスターセッション要旨

開催日：2010年2月3日

開催場所：県民共済みらいホール（横浜市中区桜木町1-1-8-2 県民共済プラザビル1階）

主催：横浜市立大学，横浜市立大学国際共同臨床研究推進実行委員会

共催：東京医科歯科大学

後援：厚生労働省，横浜市

特別協賛：横浜市立大学医学会

協賛団体および企業：アステラス製薬株式会社，株式会社高研，サノフィ・アベンティス株式会社，

第一三共株式会社，帝人在宅医療株式会社，バイエル薬品株式会社，万有製薬株式会社，

ファイザー株式会社，富士フィルム RI ファーマ株式会社

序 文

横浜市立大学は、横浜市中期計画の一環として、がんや生活習慣病、免疫アレルギー性疾患等の原因究明と最先端の治療法開発や創薬など、臨床応用につながる研究を行うための先端医科学研究センター（センター長：井上登美夫教授）を平成18年10月に開設しました。その後、研究開発部門（谷口英樹教授）、共同研究支援部門（高橋琢哉教授）の諸整備を進めつつ計画を強力に推進するために、平成21年度には臨床研究支援部門（水嶋春朔教授）を設置し、臨床研究および国際共同研究推進のための事業、組織づくりを開始いたしました。

この度、平成19年度より年1回米国食品医薬品庁（FDA）はじめ国内外から著名な研究者を招き開催してまいりました国際学術ワークショップを先端医科学研究センターの事業として引き継ぎ、第3回横浜市立大学先端医科学研究センター国際学術フォーラムを開催することとなりました。また関連してハーバード大学集中講座「広汎な基礎研究データを臨床に活かす方法」（2月1日）も開催いたしました。本報告書には第3回国際学術フォーラムの発表者の要旨及び発表スライドを収載しております。また関連して開催いたしました、ハーバード大学集中講座の講演要旨を収載いたしました。ご発表いただいた先生方に深く感謝申し上げます。

今回は「基礎研究シーズを臨床ニーズに活かす戦略と科学的ツール」をテーマに選び、トランスレーショナル・リサーチを有機的に発展させる観点から3つのセッション「1. トランスレーショナル・サイエンスとバイオマーカーの手法とツール」、「2. 遺伝子多型と遺伝子変異を考慮した治療法と薬剤の開発」、「3. 個別化医療の課題と未来」で構成しました。それぞれのセッションには、各領域の第一人者を国内外から招聘し、貴重なご講演を承り、活発な議論を期待しております。また、前回に引き続いて、学内の若手研究者のトランスレーショナル・リサーチ、臨床研究に関する研究成果をポスター形式で発表し、専門家と議論する次世代研究者育成の機会を設けました。

産官学の連携、基礎研究と臨床研究とアウトカム研究の連携、国際共同治験を含む国際共同研究の推進にご関心をおもちの147名の方々にご参加いただき、熱心な討論が展開されました。ご参加された多くの皆様に感謝申し上げます。

本国際学術フォーラムに対しまして、厚生労働省と横浜市からご後援をいただき、開会にあたっては、厚生労働省

第3回 横浜市立大学先端医科学研究センター 国際学術フォーラム 報告

の岸田修一大臣官房審議官から、また、本学との連携大学院をこの4月から開設する予定の独立行政法人医薬品医療機器総合機構を代表して近藤達也理事長から、ご挨拶を頂戴いたしました。多くの企業からもご協賛を賜りました。この場をお借りして、ご支援に深く御礼申し上げます。

水嶋 春朔

横浜市立大学国際共同臨床研究推進実行委員会 委員長

横浜市立大学先端医科学研究センター 臨床研究支援部門長

横浜市立大学大学院医学研究科情報システム予防医学部門 教授